



第52回結核予防全国大会より

平成13年3月27日、28日 / 阿波観光ホテル、アスティとくしま

妃殿下は27日の第2分科会にご臨席になり、徳島県の婦人会員、保健婦及び徳島ミュージカル劇団によるミュージカルをご覧になりました。翌日の式典では、結核予防会の責務の重要性をおことばとして述べられ、また、秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞者に表彰状を授与されました。



歓迎レセプションにて秩父宮妃記念結核予防保健看護功労賞受賞者の皆さんとご歓談



秩父宮妃記念結核予防事業功労賞受賞者の山腰茂昭氏に表彰状を授与



大会式典にておことばを述べられる

結核予防会総裁おことば

平成十三年三月二十八日

本日、第五十二回結核予防全国大会が徳島市において開催され、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

一九九三年、世界保健機関は「結核の非常事態宣言」を発表して、結核による健康被害が世界各地で拡大していることを指摘いたしました。そして、三月二十四日を「世界結核デー」と定め、この地球上から結核を撲滅するために、世界的規模で強く結核対策への国際協力を呼びかけております。いっぽう、国内においても近年、集団感染や院内感染事例の増加、既感染者の高齢化に伴う再燃事例の増加、地域における罹患率の違い、新たな多剤耐性結核の問題など、重要な課題が出てきています。

国の内外において今日なお、結核にわずらっている多くの人びとのことを思い、私たちの責務はますます重いものとなつてきていることを改めて認識する必要があります。そのひとつの例として、昨年の秋、結核予防週間において本会の各支部と全国結核予防関係婦人団体連絡協議会を中心に、はじめに街頭において複十字シール運動を積極的にいたしました。このような事例が結核予防の普及と啓発に大きな成果を上げましたことは、よろこばしいことだと思います。

本大会においては、結核予防のために多大な功績をあげられた方々に秩父宮妃記念結核予防功労賞を授与しております。今回は第四回を迎えますが、受賞されます皆さまを心よりお祝いいたしますとともに、受賞者をはじめ、長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられた多くの方々のためまめご尽力に対し、深く敬意を表したく思います。

終わりに、本日参加されました皆さまには、大会での成果をそれぞれの地域での活動に十分に活かされ、より一層の結核対策の推進を図るよう努められますことを期待し、私の挨拶とさせていただきます。